

青少年を健やかに育むために

私たちがだれもが、青少年を取り巻く環境の変化の速さや少年犯罪の増加等、昨今の青少年問題を重く受け止める必要があり。

そこで、所沢市青少年問題協議会では、幼児期から成人期における家庭や地域の役割をはじめ、青少年特有の課題をテーマとして、『青少年健全育成のあり方について』の議論を重ねてきました。

今回は、この内容を中心に、青少年を健やかに育むためにできることは何かを、一緒に考えてみましょう。
※問い合わせ 青少年課(☎2998-9103・FAX2998-9061)



▲愛の一声パトロール
吾妻地区青少年を守る会連合会では、学校の登下校時間にあわせ、子どもたちの安全を見守っています。

今、私たちができること

▼まつば児童館夏まつり
民生委員、更生保護女性会、子ども会育成会、PTA、中学生を含むボランティアの方々、児童館が連携しておまつりを開催しました。青少年の地域への参加が積極的に行われています。



市長インタビュー 青少年を健やかに育む環境づくり

●青少年が成長する過程で、何が大切とお考えですか。
斎藤市長 現代の青少年にとって、苦しいことや辛いことに対する忍耐力やこれを克服する力、人に対する思いやりや命の尊さへの理解が、特に必要だと考えております。

学校では週5日制や2学期制の導入により「ゆとり」の教育を推進し、土曜日や夏休みなどを利用した体験の機会を提供しております。学校生活は、社会の縮図として、さまざまな意見や考え方を理解する場であり、子どもたちがコミュニケーション能力を養う場としての学校のあり方が重要であると認識しております。

さらには、青少年が自然環境の中で、「自己を鍛練し、やり遂げる達成感を体験する」「生き物とのふれあいを通して、思いやりや優しさ、命の大切さを学ぶ」ために、自然体験学習の機会を提供することが有効と考えております。そして、「親や大人が子どもの手本となる」「子どもの心のよりどころとなる家庭の基盤をしっかりと築く」ことが、青少年を健やかに育んでいくものと確信しております。

●具体的な取り組みとして、どんなことがありますか。
市長 「一日の始まりはあいさつから」。あいさつは、心に「ホッ」と安らぎを与え、人と人をつなぐかけ橋です。そして、単に「言葉」を伝えるだけのものではなく、あいさつする相手を大切に思う「心」も伝えるものです。あいさつは、だれでもいつでも始めることができます。まずは、家庭の中で「おはよう」「おやすみなさい」「ありがとう」の温かいあいさつを交わすことで、「ホッとする家庭」を築き、青少年を健やかに育む環境づくりをしていきましょう。

※注：所沢市青少年問題協議会とは…
青少年の健全な育成を図るため、地方青少年問題協議会法の規定により設置され、市長を会長とし、市議会議員、関係行政機関・団体、知識経験者、公募委員などで組織されています。

■図2 四つの行動目標

四つの行動目標	実践項目
I 家庭のあり方をもう一度見つめなおそう	①一日の始まりはあいさつから ②家庭の中での役割分担をつくる ③お父さん出番ですよ ④悪いことは悪いとしっかりしつけよう ⑤大人も子どもと一緒に成長しよう
II 地域社会の持つ「地域力」を高めよう	①見て見ぬふりをしない地域社会を築こう ②地域社会のモラルの向上に努めよう ③親子で地域の行事やイベントに参加しよう ④隣近所の子どもに積極的に声をかけよう ⑤積極的に地域環境の浄化に努めよう
III 地域・家庭・学校の連携を深めよう	①学校や先生を地域社会で応援しよう ②学校行事や学校開放日には積極的に参加しよう ③地域の経験者の話を聞く機会を授業に取り入れよう ④家庭でも道德教育を実践しよう ⑤子どもの地域社会での活躍を学校に知らせよう
IV 子どもの生きる力を信じて夢を与えよう	①遊びの大切さを認め、冒険をさせよう ②自然体験活動などの長期プログラムに参加させよう ③大人が夢を語って聞かせよう ④愛を持って、期待し、励まし、見守ろう ⑤子どもの可能性を信じて未来を託そう



▲非行防止キャンペーン
青少年育成所沢市民会議と市の共催で、青少年関係機関・団体、自治会、近隣の商店街の協力を得て毎年実施しています。小学生も参加しました。

かを考え、四つの行動目標を立てました(図2参照)。そして今、できることから始めています。
* 青少年健全育成のためには、地域・家庭・学校がその役割を再認識し、補完し合う関係を信頼と協働意識のもとにつくっていくことが大切です。そして、何ができるのかを考え、できることから始めてみましょう。
◎詳細は、市役所1階・青少年課へお問い合わせください。また、市ホームページ(アドレスは表紙参照)でもご覧いただけます。

●家庭では…家庭のあり方をもう一度見つめなおそう
子どもは、親や家庭を選んで生まれてくることはできません。子どもにとって家庭は心のよりどころなのです。家庭の役割や親として…
●地域では…地域社会の持つ「地域力」を高めよう
隣近所の付き合いや井戸端会議が少なくなっています。阪神淡路大震災のときも、頼れるのは近隣の人たちでした。努めてあいさつを交わし、話しかけ、助け合い、地域でゆとりと子どもたちを育みましょう。
●学校では…子どもの生きる力を信じて夢を与えよう
学校は、地域の核となる施設です。運動会や文化祭、学校公開日、子ども大会などの各行事に、地域の皆さんで参加しましょう。大学生や会社員など学校に関係の薄い…

■図1 三つ葉の提言

の姿を再確認して、家庭や家族のあり方をもう一度見つめなおしましょう。
●学校では…子どもの生きる力を信じて夢を与えよう
学校は、地域の核となる施設です。運動会や文化祭、学校公開日、子ども大会などの各行事に、地域の皆さんで参加しましょう。大学生や会社員など学校に関係の薄い…

●三つ葉の提言
地域・家庭・学校の三つの領域は、常に重なり合う部分があり、それぞれが補い合い、連携を深めていく必要があります。同協議会では、その重なる部分を三つ葉にたとえ、「三つ葉の提言」と呼んでいます(図1参照)。
地域でも家庭でも学校でも、どこでも子どもたちに声をかけ、あいさつし、時には注意し、大人が自信を持って教育力を高めていくことが大切です。

●四つの行動目標
同協議会では、三つ葉の提言をもとに、青少年健全育成のために、私たち一人ひとりに何ができるのかを考え、四つの行動目標を立てました(図2参照)。そして今、できることから始めています。

●困ったときはいつでもおいで
森倉麗子さん(上安松在住)
私は、夫と二人三脚で3人の子どもを育ててきました。子どもには、「人に迷惑をかけないこと、人を傷つけないこと」を言い聞かせ、のびのびと育ててきました。
成長した子どもたちは、今となっては用があるときにしか親のそばに来ませんが、「困ったことがあったら、いつでもおいで」と、温かい気持ちでいます。
子どもの理解者は、何と言っても親。親の支え、温かい家庭があつてこそ、子どもが育つのだと思います。

●子どもたちを地域全体で守る
泉 正幸さん(久米在住)
吾妻地区では、子どもたちの安全確保を考え、子どもたちとあいさつをすることでコミュニケーションを図る「愛の一声パトロール」を実施しています。各団体が連携し、子どもたちの登下校にあわせて、週1～2回活動しています。
恥ずかしさから下を向いて歩いてきた子どもたちは、徐々にあいさつができるようになり、今では、ほのぼのとした関係を築いています。
今後も継続して、子どもたちを地域全体で守っていきます。